

富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：沼津工業高等専門学校（総括責任者：柳下 福蔵）

プロジェクトの概要

富士山麓地域の特色を活かしつつ中小企業主体による地域再生を行うため、医療機器開発に必要な薬事法等の法的知識、医療機器に求められる品質とそれを達成する製造技術を持った医療機器開発の中核となって社内をリードできる技術者を養成する。本プログラムは、医療機器開発に係るものづくり技術分野を担当する沼津高専と医用生体工学分野を担当する東海大学開発工学部を中心に、臨床機関、大手医療機器メーカー、産業支援機関など多様な教育シーズによるネットワークを形成し、医用基礎技術コースと医用先端技術コースの2つのステージで系統的なカリキュラムを編成する。また、受講者及び企業経営者により医療機器開発までのロードマップを作成させ、養成修了段階では、自社で実現可能性の高い製品の開発を目指す。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	s	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、静岡県が精力的に進めているファルマバレー構想に沿ったプログラムで地域のニーズに合致したものであり、所期の計画に沿って概ね適切に取組が行われていると評価できる。今後は、真に地域再生に貢献し得る高い技術力を備えた医用機器開発エンジニアを中小企業中心に多数輩出し、本地域の産業を支える技術者の裾野を一層広げることを期待する。

- ・ **進捗状況**：所期の養成目標を大きく上回る人材を輩出するとともに、共同研究も終了時目標数を達成できる見通しで開始するなど、取組を順調に推進しているものと高く評価できる。今後は、中小企業の医療機器開発へのかかわり推進を一層加速することを期待する。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：実践的でバックアップ体制も構築された取組であり、医用機器開発を目指す地域の中小企業にとってメリットが大きい。また、医学、医工学、工学の専門家を揃えた講師陣は充実しており、基礎技術から先端技術までカリキュラムも充実している。
- ・ **実施体制・自治体等との連携**：静岡県、東海大学、静岡県がんセンター・静岡医療センター等の医療機関、地元大手医療関連企業等との連携が充実しており、講師陣の派遣、医療機器ニーズの掘り起こし等に有効に機能している。
- ・ **人材養成ユニットの有効性**：「人材の育成」という本取組の役割が、ファルマバレープロジェクトの中で明確に位置付けられている。また、派遣企業経営者の集まり「F・met サロン」は

経営者の意識改革及び意識の高揚に有効に機能し、本プログラムの地域における意義を更に高めるものと評価する。

- ・ **継続性・発展性**の見通し：沼津高専専攻科を改組した上で「医療福祉機器開発工学専攻コース」を新たに設けて事業を継続する方向を明確化し、また社会人についても本プログラムを並行して走らせる予定であることは評価できる。